

色彩の情熱、生命への讃歌

館長 佐藤 修

平澤喜之助は、1919年(大正8年)長野県上伊那郡宮田村の生まれ。帝国美術学校洋画部に学び、中川紀元に師事。大調和会の運営委員。朝井閑右衛門の知遇を得る。1994年(平成6年)歿。享年75歳。一手元の美術年鑑等を紐解くと平澤喜之助の項にはその程度の記述しかありません。前後に記載されている作家のそれに比べいかにも少ないのに驚かされます。この画家をそんな扱いで済ませて果たしてよいのでしょうか。

その平澤喜之助に惚れ込み、作品の蒐集と研究にあけてくれている人がいます。諏訪市在住の宮本幸典さんです。当館恒例の「私の愛する一点展」を通して、宮本さんの平澤コレクションと研究ぶりに触れたのが、本展覧会が開催されるきっかけでした。

「才ありながら埋もれている作家を掘り起こし、その再評価を求める」—これが稀代のコレクター梅野隆の活動テーマでした。その遺志を引き継ぎ、幾人もの画家を顕彰展示してきましたが、画家がその名を遺すには、絵そのものの力だけでは足りない。作品を集めた人、調べた人、大事に持ち続けた人、世に紹介した人、そういう人たちの思いがみな集まって初めて美術館の展覧会が可能になるのだ、ということをそのたびごとに思い知らされるのです。

その存在感は「四囲を圧倒する」とは梅野さんの平澤評。本展覧会によって画家の真髓が認められその評価が高まることを願っています。



2016年展覧会スケジュール

変更となる場合もございます。

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
大展示室 ふれあい館	望月通陽展 9/4~10/23		平澤喜之助展 10/30~1/15		取巻と整理のため休館	絵画館の美展 2/15~3/29	市民ギャラリー 燃タ会	みまき地産地消会	未定			

2016年イベントスケジュール

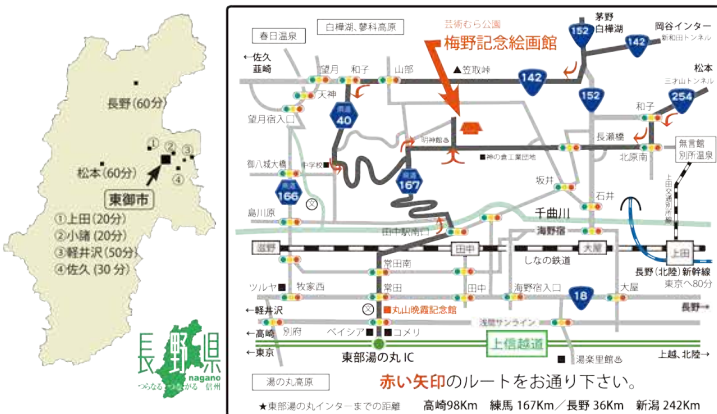
- 10月8日(土)~9日(日) 火のアートフェスティバル(入館料無料)
- 11月3日(木・祝) 平澤喜之助を語る
鼎談(折笠勝之・宮本幸典・小林義美) 13:30~(要予約)
- 11月27日(日) 語りを楽しむ(マルーシカの会) 13:30~(要予約)
- 12月23日(金・祝) クリスマスコンサート
- 1月15日(日) 友の会新年会・懇親会 13:30~(要予約)

施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
 〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1
 TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp
 開館時間 午前9時~午後5時(4時30分迄にご入館ください)
 入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)
 身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。
 休館日 11月7, 14, 21, 24, 28日 12月5, 12, 19日 1月10日
 冬期休暇 12月25日~1月4日

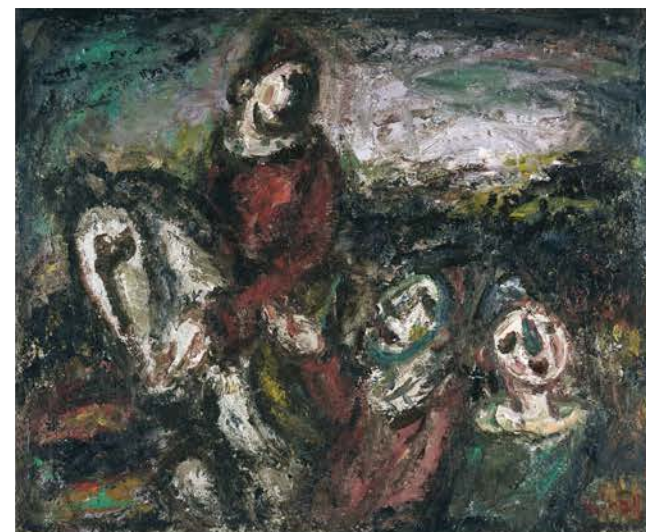
アクセス

- お車** 練馬ICから2.5時間
- 鉄道** 東京から最速2時間
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- ◆関東、北陸方面から
上信越道東部湖の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信! Tune Now!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@fntomi785.jp



旅立ち

色彩の情熱 生命への讃歌

平澤喜之助展

2016 2017
10月30日(日)~1月15日(日)

11月3日(木・祝) 平澤喜之助を語る
鼎談(折笠勝之・宮本幸典・小林義美)

11月27日(日) 語りを楽しむ(マルーシカの会)



東御市梅野記念絵画館

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162

年譜

1919年 3月5日長野県上伊那郡宮田村に生まれる。
 1933年 上伊那郡村立宮田尋常小学校卒業。
 1938年 帝国美術学校(現武蔵野美術大学)中退後、兵役につく。
 1947年 鈴木しずと結婚。
 1949年 「ジープ」一水会に入選、双台社展にも入選。
 1956年 1月代々木絵画研究所開設記念展に出品。同所講師となる。この頃より、東京金曜会絵画研究所を主宰し、絵画
 絵画指導をする。この頃中川紀元、小泉清、朝井閑右衛門等の知遇を得て、私淑する。
 1957年 1月第1回個展を銀座安藤七宝店画廊にて開催。1962年2月復活大調和会第1回展に参加するが、出品はしていない。
 1963年 1月復活第2回大調和会展に「花」「女」「山」を出品し、運営委員に推挙される。兜屋画廊で個展。その後、2回開催する。
 1964年 復活第3回大調和会展から応募作品の審査、運営に関わり、1994年の第33回展までつとめる。朝井閑右衛門のすすめにより毎回、新樹会に招待出品する。
 1970年 「フランス名画と現代日本作家展」に出品し、フジテレビ放映。「白樺派の画家たちと大調和会」と題し、諏訪・東京金曜会員と信越テレビに出演する。新宿小田急百貨店で個展開催。以後20回以上開催する。中村直人、志村一男らと同舟会を結成し、70年会設立に参加。以後10回ほど出品。
 1971年 8月第24回「新しき村美術展」に5点出品し、以後29回展まで出品する。
 1972年 「平沢喜之助画集」(素描編)を南信日々新聞社から刊行。
 1973年 西日本縦断個展を大阪、福山、他にて開催。
 1975年 帝展二百人展に選抜出品。望郷の詩(1)「花巻美人」パステル画集を富士短期大学より刊行。「平沢喜之助の人と作品」諏訪金曜会絵画研究所より刊行。
 1976年 望郷の詩(2)「子持ちみみずく」パステル画集を富士短期大学より刊行。土と油との年輪(1)「白鷺城」油絵画集を同じく富士短期大学より刊行。平沢喜之助画集「百選シリーズ(1)『人と裸婦』大日本総合美術より刊行
 11月、人間讃歌を画く「平沢喜之助油絵展」宮田村にて開催、図録刊行。
 1977年 土と油との年輪(2)「海の道標」油絵画集を富士短期大学より刊行。
 1978年 この頃、双樹会の設立に参加。
 1981年 6月、フジテレビの番組「テレビ美術館」収録。脳血栓にて倒れ、以後約10年間闘病生活を送る。
 1994年 北九州市立美術館にて「平沢喜之助展」開催。駒ヶ根市にて「平沢喜之助画業50年記念展」開催。3月21日逝去。以後、各地で追悼展、遺作展開催される。
 2003年 重厚なマチエール・彩色の美学「平沢喜之助展」ギャラリー82にて開催。
 2011年 信州高遠美術館にて「平沢喜之助展」開催。
 2016年 11月、色彩の情熱、生命への讃歌「平沢喜之助展」東御市梅野記念絵画館にて開催。

平成15年ギャラリー82作成年譜を参考



バラ花



横タワル裸



道化師



えかき



けいこ場



白神岬